

令和4年10月28日
農推第1210-7号

病害虫発生・防除情報メールサービス

大阪府環境農林水産部農政室

特に注意！（11月）

バラ科果樹類：クハツカミナリ



フラス

幼虫

防除のポイント

- ◆ 被害が大きい樹は伐採し、破碎（チップの厚さは10mm以下を目安）や焼却することが望ましい。
- ◆ 伐採した枝や幹はほ場に放置せず処分する。すぐに処分できない場合は、ネットやビニルシート等で2重に覆う。
- ◆ 幼虫は根部も加害するため、伐採後の切り株もネットやビニルシート等で2重に覆い、内部の幼虫の羽化後の分散を防ぐ。
- ◆ 伐採後の注意の詳細については本文2ページ参照。

きゅうり：コナジラミ類（退緑黄化病）

タバココナジラミ幼虫*

タバココナジラミ成虫と
キュウリ退緑黄化病被害葉※

特徴

- ◆ タバココナジラミやオンシツコナジラミが加害する。
- ◆ 葉の汁を吸ってネバネバした液を排泄し、その上にすす病が発生するため、葉や果実が黒く汚れる。多発すると株全体が弱り、収量も減少する。
- ◆ タバココナジラミは、CCYV（ウリ類退緑黄化ウイルス：きゅうり、メロン、すいか等にも感染）等を媒介する。
- ◆ CCYVに感染すると、葉に退緑小斑点を生じ、次第に小斑点が増加・癒合しながら徐々に黄化する。

防除のポイント

- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ ほ場及び周辺の除草を行う。
- ◆ CCYVに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるタバココナジラミの早期発見・早期防除に努める。発生を認めたら、グレーシア乳剤、コルト顆粒水溶剤、ベネビアOD等を散布する。
- ◆ キュウリ退緑黄化病の発病株は、ほ場外に持ち出し処分する。

野菜・花き類：ヨイトビヨウ



特徴

- ◆ ねぎでの発生が多いが、その他しゅんぎく、なす科野菜、あぶらな科野菜、豆類、花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
- ◆ 発生を認めたら、コテツフロアブル（ねぎ、キャベツ等）、ロムダンフロアブル（ねぎ、花き類・観葉植物等）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

次回の情報は11月下旬にお知らせします。◎「防除指針」<http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

病害虫の発生予報（11月）

A 水稻

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稻	ジャンボタニシ（発生に注意）				

B 果樹類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ（発生に注意）				
みかん	貯蔵病害（発生に注意）				
果樹類全般			果樹カメムシ類		

C 野菜類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きゅうり	べと病				
	うどんこ病				
				褐斑病	
	アザミウマ				
	黄化えそ病（発生に注意）				
				コナジラミ類	
退緑黄化病（発生に注意）					
トマト ミニトマト	葉かび病・すすかび病				
			コナジラミ類		
黄化葉巻病（発生に注意）					
あぶらな科 野菜			根こぶ病		
			菌核病		
				コナガ	

D 野菜・花き類

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜 花き類				シロイチモジヨトウ	
				ハスモンヨトウ	
				オオタバコガ	
	アブラムシ類				

水稲（収穫後の防除について）

ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）



ジャンボタニシ
(スクミリンゴガイ)

特徴

- ◆ 成員の殻高は2～7cm程度。

防除のポイント

- ◆ 刈り取り後、耕うんして貝をひき潰したり、地表で寒気にさらし凍死させて、越冬貝を減らす。土中の浅いところ（6cm未満）に潜って越冬することが多いため、耕耘を浅く、ロータリーの回転を速くする。
- ◆ 耕うん機等の土に貝が付着することがあるので、移動の際はしっかり土を落とす。

注) 当該項目「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）」の写真は、農林水産省リーフレット「ジャンボタニシによる水稲の被害を防ぐために」より引用。

カラー技術資料「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）から稲を守りましょう！」
についてもご参照ください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/tanishi/tanishi2017.pdf>

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ

伐採後の切株について

なるべく伐根する
伐根できない場合は

切株をビニルシートや
肥料袋等で覆う

さらにネットで2重に覆う
(根部まで全て)



処分に伴う運搬について

- ◆ 本種は特定外来生物に指定されており、伐採樹であっても、内部に幼虫が潜んでいる場合は運搬が制限される。このため、**処分のための運搬であっても市町村の指示に従う**こと。
- ◆ 市町村焼却施設（もしくは市町村の清掃工場）で焼却可能な場合は、ネットで被覆する等の**分散防止措置を実施の上**、現地より運搬して焼却する。

野焼きについて

- ◆ 廃棄物の処理と清掃に関する法律第16条の2により、**野焼きは原則として禁止**されている。一方で施行令第14条第4項において、「農業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却」については例外とされている。**例外に該当するかどうかは市町村によって異なるため必ず確認し、なるべく焼却施設にて焼却する。**

クビアカツヤカミキリの特徴および防除方法の詳細については、下記リンク先をご確認ください。

●技術資料「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/Aromia_bungii/Aromia_bungii_manual_R3.3.pdf

温州みかん

貯蔵病害



緑かび病

特徴

- ◆ 青かび病、緑かび病、軸腐病等がある。
- ◆ 青かび病や緑かび病は主に傷口から感染する。

防除のポイント

- ◆ 収穫前にトップジンM水和剤（青かび病、緑かび病、軸腐病）やベフラン液剤25（青かび病、緑かび病等）等を散布する。
- ◆ 収穫時、果実に傷をつけないように注意する。
- ◆ 果実が濡れている時は収穫しない。貯蔵を始める前に果皮を乾燥させる（予措）ことで貯蔵後の腐敗が少なくなる。
- ◆ 貯蔵時の庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にする。

果樹類全般

※作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

果樹カメムシ類



チャバネアオカメムシ※

特徴

- ◆ チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ等が加害する。

防除のポイント

- ◆ 発生量や加害時期は年、ほ場により変動するので、カメムシ類の活動が活発になる夕方に園内を見回り、飛来を確認したら、速やかに農薬散布を行う。
- ◆ 発生を認めたら、スタークル／アルバリン顆粒水溶剤（かんきつ、かき、なし等）、アディオン乳剤（かんきつ、かき、なし等）等を散布する。多発時には、残効性が比較的高いピレスロイド系薬剤、ネオニコチノイド系薬剤を中心に散布する。
- ◆ 農薬散布は夕方か早朝に行うと効果的である。

きゅうり（施設抑制裁培）

べと病



べと病*

特徴

- ◆ 気温20～24℃で発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 排水を良好にし、多湿を避ける。
- ◆ 施設栽培では換気に注意し、結露を避ける。
- ◆ 被害茎葉を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 肥料切れしないように、肥培管理に注意する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン／ペンコゼブ水和剤等を散布する。発生を認めたら、リドミルゴールドMZ、アミスター20フロアブル等を散布する。

うどんこ病



うどんこ病*

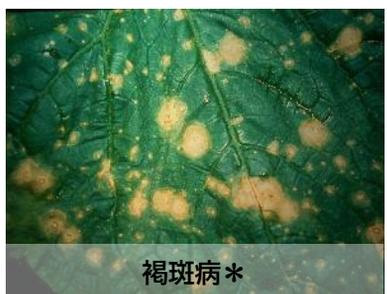
特徴

- ◆ 施設栽培で、日照不足、乾燥時に発生が多い。
- ◆ 昼夜の温度差が大きくなると発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 被害葉を除去し風通しを良くするとともに、施設内の換気を良好にする。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、バルコート水和剤、フルピカフロアブル等を散布する。発生を認めたら、アフエットフロアブル、トリフミン水和剤等を散布する。

褐斑病



褐斑病*

特徴

- ◆ 高温、多湿のハウス栽培で発生が多い。
- ◆ 天井フィルムからの結露水のポタ落ちで発生が助長される。

防除のポイント

- ◆ ハウス内の換気を良好にし、多湿にならないよう注意する。
- ◆ 被害葉・老化葉は早めに除去する。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、ジマンダイセン/ペンコゼブ水和剤、バルコート水和剤等を散布する。発生を認めたら、カンタスドライフロアブル、プロポーズ顆粒水和剤等を散布する。

アザミウマ類（黄化えそ病）



ミナミキイロアザミウマ被害葉※

特徴

- ◆ 発生初期は、葉脈沿いにカスリ状の白い斑点を生じる。
- ◆ ミナミキイロアザミウマは、MYSV（メロン黄化えそウイルス：きゅうり、メロン、すいか、しろうり、にがうり等にも感染）を媒介する。
- ◆ MYSVに感染すると、葉にえそ斑点を伴うモザイク症状や黄化などの症状を示す。

防除のポイント

- ◆ 施設の開口部を0.8mm目合いの赤色ネットや0.4mm目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を防止する。
- ◆ ほ場及び周辺の除草を行う。
- ◆ MYSVに対する有効な薬剤はないため、媒介昆虫であるミナミキイロアザミウマの早期発見・早期防除に努める。発生を認めたら、グレーシア乳剤、アフーム乳剤、バストガード水溶剤等を散布する。
- ◆ キュウリ黄化えそ病の発病株は、ほ場外に持ち出し処分する。

キュウリ黄化えそ病とキュウリ退緑黄化病について

- ◆ 近年多発しているキュウリ退緑黄化病と黄化えそ病は、見た目で見分けることは困難である。
- ◆ アザミウマ類とコナジラミ類は併発することも多いため、その場合はグレーシア乳剤、モバントフロアブル、バストガード水溶剤（登録はミナミキイロアザミウマ）等両害虫に登録のある農薬を散布する。

トマト・ミニトマト（施設栽培）

葉かび病・すすかび病



被害葉 表（左）

裏（右）※

特徴

- ◆ 過湿条件で発生する。
- ◆ すすかび病は近年増加傾向にある。葉かび病より、葉裏のかびが黒く見えるが、肉眼で見分けることは困難である。葉かび病抵抗性品種で症状が見られる場合は、すすかび病を疑う。

防除のポイント

- ◆ 多発時には防除が困難であるため、予防的散布が大切である。
- ◆ 発生が見込まれる時期に、バルコートフロアブル、ダコニール1000等を散布する。発生を認めたら、トリフミン水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤等を散布する。

コナジラミ類（トマト黄化葉巻病）



コナジラミ類成虫※

トマト黄化葉巻病発症株

特徴

- ◆ すず病を引き起こす他、タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス（TYLCV）の媒介や吸汁による果実の着色異常など様々な被害を引き起こす。

防除のポイント

- ◆ トマト黄化葉巻病は、定植後の早い時期に感染すると収量への影響が大きく、株ごと除去する以外に対策がないため、コナジラミ類の防除を徹底する。
- ◆ 施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
- ◆ ほ場周辺の雑草、特に野良生えトマトの除去を徹底する。
- ◆ グレーシア乳剤、コルト顆粒水和剤、トランスフォームフロアブル等を散布する。

あぶらな科野菜（キャベツ、こまつな、しろな等）

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

根こぶ病



キャベツのしおれ症状と生育不良*

特徴

- ◆ 定植後1ヶ月頃から晴天の日中に葉がしおれるようになり、やがて葉色・生育が悪くなり、激しい場合には枯死する。

防除のポイント

- ◆ あぶらな科野菜の連作を避ける。
- ◆ 土壌水分が多いと発生しやすいので、多湿ほ場を避ける。
- ◆ 土壌pHが低い（酸性）と発生しやすいため、石灰質資材等を施用し、pH7程度に調整する。
- ◆ 発病株は早めに根ごと除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ 前年発生した畑では、キャベツ、はくさい、ブロッコリー、カリフラワー等では定植前に、非結球あぶらな科葉菜類やかぶ等では種前に、ネビリュウやオラクル粉剤を土壌混和する。

菌核病



キャベツでの発生

特徴

- ◆ 暖冬時に発生が多い。

防除のポイント

- ◆ 菌核が土中に残って伝染源になるので、発病株は、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ◆ なばなやレタス等、本病が発生しやすい作物との輪作を避ける。水田との輪作は防除効果がある。
- ◆ キャベツやはくさい等で、発生が予想される場合は、結球開始期から**ベンレート水和剤**、**ロブラル水和剤**等を予防的に散布する。

コナガ



コナガ成虫 ※



コナガ幼虫 ※

特徴

- ◆ 主にあぶらな科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆ 一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、**ディアナSC**（キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類等）、**デルフィン顆粒水和剤**（野菜類）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

野菜・花き類

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

ハスモンヨトウ



ハスモンヨトウ幼虫

特徴

- ◆ なす科野菜、あぶらな科野菜等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 老齢幼虫の防除は困難なので、発生初期（若齢幼虫期）に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。
- ◆ 発生を認めたら、**アニキ乳剤**（なす、トマト、きゅうり、キャベツ、ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類等）、**プレバソフフロアブル5**（なす、キャベツ、ブロッコリー等）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

ヨトウムシ類については「ヨトウムシ類の見分け方」をご参照ください。

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

オオタバコガ



オオタバコガ幼虫

特徴

- ◆ 果実や茎、結球部等に食入する。被害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。
- ◆ キャベツなどのあぶらな科野菜、なす、トマトなどのなす科果菜類、きくなどの花き類等多くの作物を加害する。

防除のポイント

- ◆ 果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応する。
- ◆ 発生を認めたら、プレバゾンフロアブル5（なす、トマト、ミニトマト、キャベツ等）、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、キャベツ、花き類・観葉植物等）等を散布する。

令和4年9月6日発出の防除情報「引き続きオオタバコガに注意を！」についてもご参照ください。
[http://www.jppn.ne.jp/osaka/R4th/boujyoyouhou/2209_bojo06\(ootabakoga_02\)_soshin.pdf](http://www.jppn.ne.jp/osaka/R4th/boujyoyouhou/2209_bojo06(ootabakoga_02)_soshin.pdf)

アブラムシ類



ワタアブラムシ※

特徴

- ◆ 作物を吸汁し、生育を阻害する。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介する。

防除のポイント

- ◆ 発生を認めたら、コルト顆粒水和剤（なす、きゅうり、トマト、キャベツ、花き類・観葉植物等）、スタークル/アルバリン顆粒水溶剤（なす、きゅうり、キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類等）、ウララDF（なす、きゅうり、トマト、キャベツ、非結球あぶらな科葉菜類等）等を散布する。
- ◆ 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統の薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。